

「富国有徳の理想郷—しずおか」を目指して・・・

第 11 号

# 県庁のしごとと改革ニュース



## 「速く」、「ムダなく」、「いい仕事」

日本一の「ひとり1改革運動」の取組成果を御紹介します！

静岡県では、職員一人ひとりが自ら考え、身近なところから改革・改善を実践する「ひとり1改革運動」に取り組んでいます。

この運動は平成10年度から始まり、これまでの取組件数は12万件を超え、経費の節減や時間の節約、県民サービスの向上に大きな成果を上げています。

平成21年度 15,722件の取組効果

**215億9,570万円 + 55人 + 8,092件**

節約と経済効果

**16億3,580万円の事務経費を節減**

(例) 山村部での地籍調査の手法を安価で簡易なものに変えて、4,200万円を節減

**10万8,344時間の事務時間を節約（職員55人分に相当）**

(例) 事業者への情報伝達に一斉メール配信システムを活用し、1,232時間を節約

**199億5,990万円の経済効果が発生**

(例) 個人住民税について、県・市町が連携して広報や徴収準備を進めることで効率的な徴収を可能とし、収入率の向上により最大で9,300万円の経済効果が発生

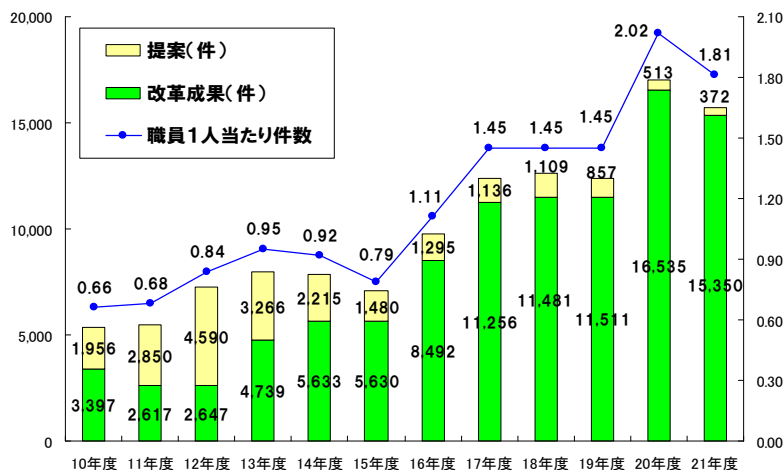
県民満足度の向上

**県民の皆様の満足度が向上した取組 8,092件**

- (例) ・安全性と快適性に配慮した新しい術後病衣を開発し、患者さんの負担を軽減
- ・申請時の必要書類一覧表やチェックリストの作成により申請者の利便性が向上
- ・案内板に課名だけでなく担当業務も表示し、来庁者に分かりやすく情報提供

※ 効果額等は、取組成果のひとつの目安として、見込みも含めた各所属の自己申告値を集計したものです。

<取組件数の推移>



<全国比較>

順位	県名	18～20年度取組件数合計
1	静岡県	42,006
2	岩手県	22,880
3	埼玉県	14,472
4	東京都	5,341
5	熊本県	3,248

## ＜県民サービス＞

### ドレトラブル予防と日常生活活動を促進する術後病衣の開発

腹部の外科手術後に使用する各種チューブ類については、屈曲しやすい、チューブが抜けるといった安全面での課題があり、また、拘束感を感じることで、手術後の日常生活の妨げとなっていました。

そこで、ファルマバレーセンターや民間企業との協働により、屈曲等のトラブルを予防しながら日常生活での負担を軽減する、新しい術後病衣を開発しました。

現在も患者さんからの意見などを取り入れて改良を重ねており、安全性、快適性の更なる向上を目指しています。



新しく開発した術後病衣

#### 【ドレンとは？】

体内に貯留した血液等を体外に排出するために用いられるチューブ

## ＜安心・安全＞

### 特別養護老人ホームに新型インフルエンザへの「対応の手引き」及び「事業継続計画」の作成例を提供

高齢者の入所施設では、新型インフルエンザが流行した場合にも食事等の事業を継続していく必要がありますが、各施設では適切な対応に苦慮していました。

そこで、関係団体と協働で、都道府県では全国で初めて「対応の手引き」と「事業継続計画」の具体的な作成例を各施設に提供しました。

その結果、各施設での計画等の作成を促進できたほか、他県からも参考にしたいといった反響が数多く寄せられました。



「対応の手引き」、「事業継続計画」の作成例

## ＜協働・連携＞

### 地域みんなで佐鳴湖浄化。刈り取ったヨシの活用で一石三鳥

佐鳴湖の浄化対策のため、市民参加で湖周辺のヨシの刈り取りを行い、刈り取ったヨシは廃棄物として費用をかけて処分していました。

そこで、刈り取ったヨシを有効活用するため関係機関や市民団体と協働で検討し、お茶畑の敷きワラとして活用することとしました。

その結果、処分費用を年間で217万円節減できたほか、地域での資源循環の実現、佐鳴湖浄化のPRなど、様々な効果を生み出すことができました。



市民との協働によるヨシの刈取作業



## ＜場の力の活用＞

### 「ふじのくに森の町内会・間伐に寄与する紙」で森づくりをサポート

近年の木材価格の低迷により、間伐を行っても半分以上の木材が資源として活用されず、森林内に放置されていました。

そこで、製紙会社との協働により、通常の利用紙代の10%（15円/kg）を間伐材利用促進費用として上乗せした「間伐に寄与する紙」を、サポーター認定企業に購入していただく地産地消の仕組みをスタートさせました。

今後、参加企業数が増加することで静岡県森林整備が促進され、地球温暖化の防止にも貢献していくものと期待しています。



印刷物に表示されたロゴマーク

## ＜観光・交流＞

### 住民との協働で進める地域活性化プロジェクト

熱海市において、訪れる人にも住んでいる人にも魅力ある地域づくりを目指す上で、まずは海岸部の魅力を高めていく必要があります。

そこで、熱海商工会議所など地域の民間団体や熱海市との協働により、テラス式護岸上へのオープンカフェの設置や、海上タクシーの運航などの社会実験を行いました。

その結果、利用者アンケートでも9割以上の方が「また利用したい」と回答するなど高い評価を得ることができ、地域と県・市の信頼関係も深めることができました。



オープンカフェの様子

## ＜かえる＞

### 山村部の地籍調査を加速 ～山村部での新たな取組～

山村部では公図の精度が極めて低く、地籍調査の実施が急務となっていますが、国の定めた調査・測量方法は山村部の実状に合わず、コスト高となっていました。

そこで、森林組合の協力のもと、境界測量に必要な精度を確保しつつ、現行の作業規定より安価で簡易な手法を国に提案したところ、承認を得ることができました。

その結果、安価かつ迅速に地籍調査を行うことができるようになり、年間約4,200万円の経費を節減することができました。



山村部での測量の様子

## <予算削減>

### 民間との協働実施で経費を節減(富士山ごみ減量大作戦)

富士山の清掃活動「富士山ごみ減量大作戦」について、当初は公募ボランティアとの協働により、富士山麓周辺道路の清掃活動を県主催で年1回実施する予定でした。

そこで、民間テレビ局との共催により実施したところ、経費を約42万円節減できたほか、年2回実施することができました。

また、報道機関と協働で実施したことで、富士山の環境保全の取組を県内外に広く情報発信することができました。



ボランティアとの協働による清掃活動

## <これまでの主な取組事例と効果>

年度	主な取組事例	効果	
⑰	センサー式通学路安心灯を地域と協働で開発	全国初の取組	防犯まちづくりの推進
	農家と住民との協働で鳥獣害防止柵を設置	約7,200万円	10年間の被害想定額の防止
	渋滞緩和事業により通過時間を短縮	約300億円	時間短縮に係る経済効果
	治療証明カードで患者さんの生活支援	県民満足度向上	患者さんへ安心感を提供
⑱	災害時のインターネット利用につき民間事業者と協定	約1億4,000万円	災害時の広報体制を確立
	回転広場で橋の渋滞を解消	約78億円	経費節減と時間短縮の経済効果
	鉄道高架工事の現場監督体制を効率化	約1,000時間	時間外勤務が大幅減
	「葵カード」で緊急時の医療体制を整備	県民満足度向上	患者さんへ安心感を提供
⑲	避難所運営ゲーム(HUG)で楽しく学ぶ	県民満足度向上	地域防災力の向上
	がんに関する相談窓口を市町村別にわかりやすく提供	県民満足度向上	患者さんへ安心感を提供
	使用停止小型焼却炉を短期集中撤去	約2億8,700万円	経費節減と工期短縮
	給食施設の自主管理促進と監視指導を効率化	約1,430時間	効率的な監視指導の実現
⑳	既存市道を県道に振り替えて整備を推進	約26億6,000万円	経費節減と工期短縮
	税務調査検証シートを作成し、検証方法を標準化	調査日数の短縮	業務の効率化
	家族で美術鑑賞を楽しむきっかけを提供	県民満足度向上	児童・生徒の観覧者数の増加
	血栓症治療に用いる新しい固定用具を開発	県民満足度向上	患者さんの負担軽減

### 静岡県経営管理部行政改革課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6 電話：054-221-2912 FAX：054-221-2750

e-mail [gyoukaku@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:gyoukaku@pref.shizuoka.lg.jp)

ホームページ <http://www.pref.shizuoka.jp/soumu/so-030a/>